

かお・人インタビュー

平成 26 年 3 月 24 日 (木)

(一社)建設コンサルタント協会九州支部 女性技術者交流会

岩根 陽子 委員長 に聞く



今、公共工事の品質確保に伴う将来の担い手不足が建設業界の大きな課題となっているが、改正品確法でも担い手の育成・確保を受発注者の責務として位置づけている。国土交通省九州地整では、女性技術者の登用を促す試行業務などを実施し、建コン九州支部でも昨年10月に女性技術者交流会を立上げ、女性技術者の入職促進や女性が働きやすく、活躍できる環境づくりなどの課題解決に向けて動き出している。そこで、建コン九州支部女性技術者交流会の岩根陽子委員長に、これまでの活動経過や今後の取り組みなどについて話を聞いた。

○まず、委員長就任の思いを

正直、最初はなんでわたしなのだろうかと思いましたが、事務局などからの薦めもあり、期待されるからには、みんなをうまくまとめていけたらいいかなと思っています。会員さんは、やる気のある若い人やいろ

いろなキャリアの人、幅広い年代で構成されており、私はその中で中間に位置し、上と下との調整を図りながら、みんなで仲良くやっていきたいと考えています。

○女性技術者交流会の設立について

会員は、建設コンサルタント協会九州支部会員企業の女性技術者19名で組織し、活動期間として2016年度までの2ケ年を予定しています。将来的には常設の委員会とすることも視野に入れ、若年者の入職促進、同業他社との交流促進、人材不足の解消、九州地

整の女性登用への取組などを背景に、男女ともに働きやすい環境づくり、学生の入職促進や女性技術者が活躍するための課題解消などを目指すことにしています。

○交流会のこれまでの意見交換は

昨年10月の第1回の会合では、アンケート結果の説明を交えながらお互いの自己紹介と女性技術者ア

「女性だけの教育内容」、「会社と

しての産休・育休制度」、「個別対応」の活用状況などについて意見

を交換し、委員長選出が行われました。12月の第2回会合で、「男女が働きやすい環境にする」をテーマに、それぞれの会社の現状について報告し、時間短縮などの育休制度、男子の育休の取得状況、それに伴うトラブル関係などについて語り合い、それらを充実させていくために、どのような対策が必要か、検討していくための希望

や要望、不満などをピックアップして、レポートを作成しました。

また、関東支部女性の会WGからの提案、報告があり、関東ではニュースレターとして情報を発信していく予定があることや九州支部との連携なども考えているとのことで、九州としても、関東の情報を収集し、今後の活動に活かしていきたいと考えています。これ

をキッカケに、全国で同じような動きが出てくると、行政や世論の考えも大きく変わってくるかも知れませんし、期待しています。

次の会合は、来月の4月開催を予定し、働きやすい環境づくりのための対策検討や発注者に対する改善要望をとりまとめる予定です。6月までには何らかの結果をまとめていきたいと思っています。

○今後の活動方針について

方向性としましては、女性技術者が働きやすい職場環境づくりが、男性や若手の技術者も働きやすい職場環境づくりにつながるというテーマで職場環境の改善を図りたいと考えています。具体的には、育児休暇、介護休暇など法定の支援制度や各社独自の制度の活用状況、活用に応じた課題などを洗い出し、より働きやすくなるために必要な取組について検討していきます。

また、将来的には、女性技術者を特別視する業界全体の雰囲気や出産、育児など女性特有の課題を気にせずに取り組める環境整備に取り組んでいきます。



○業界の現状と課題について、どのような認識をお持ちでしょうか

まだまだ女性技術者は少なく、珍しい存在であります。本人達はそれ（特別視されること）を何とも思っていないのですが、結婚や出産といった人生の行事はどうしても仕事との両立が難しいのが現実です。今後、急激に女性技術者が増加することは期待できません

が、そのための職場環境は整えてほしいと思います。

大手は取組みが速いが中小はなかなか難しい、そもそも女性技術者のパイは小さく、中小でその制度を確立するメリットが少ないので、しょうがないと思う気持ちもあります。だから、自分で会社や

外側に発信していくしかありません。それを発信できないようであれば、男性社会でやっていけないと思います。

正直、女は女で結構ずぶといので、意外としたたかにやっている気もします。

○担い手の確保・育成等を含む発注行政に望むこと



今年度は、九州地方整備局で若手技術者や女性技術者活用の業務が発注されました。受注業者は大手ばかり、やはり大手に任せるのが安心だと思いますが、女性技術者は転勤を望まない人も多く、地方の中小に意外と存

在します。だから、中小にも目を向け、門戸を拓けてほしいです。最近は発注者の女性技術者などが増えているように感じます。互いに存在を認め合い、切磋琢磨して、認知度をあげていきたいと思っています。



○女性技術者としての個人的な思いは

就職の動機は、別に女だからと意識せぬまま、大学で土木を専攻し、当たり前のように土木女子になりました。最近はどこかの大学も「土木」という名称を付けておらず、勘違いして入学する女性もいますが、会社に入ってずっとこの業界にいる女性は結構の筋金入り

だと思います。やりがいについても、これも女だからって、なにかを感じることはありません。特に私は、がさつな性格なので、女性だからこれに気を配るとか、そんな性格でもありません。ただ、この仕事がおもしろいから続けているだけ、たぶん皆もそうだと思います。

ます。

夢についても、これも同様、女性だから特別ななにかをやりたいとは考えていません。一技術者として成長し、魅力的なプロジェクトに関わりたいと考えています。

○趣味や特技などについてはいかがですか

毎週、テニスとヨガをやっています。テニスにいたってはかれこれ27年間やっており、うまくはないですけど、テニスバカです。あとは、お



酒を飲むのが大好きです。白波のお湯割りが好きです。というか、女性技術者交流会のメンバーは結構みんな飲むかもしれません。



○簡単なプロフィール



福岡生まれの福岡育ち、福岡から一歩も出たことがないです。というより、出たくないです。

福岡県立修猷館高等学校から九州大学工学部建設都市工学科、大学院を経て、2001年に第一復建(株)（福岡市）に入社。

現在、在職15年目で、同社構造設計部の副部長兼、CIM推進準備室長として勤務。